

いざという時に備えた 防災の取り組み

災害の被害を抑えるためには、「自助」「共助」「公助」それぞれの災害対応力を高め、連携することが大切です。大規模災害が発生した際、行政からの支援に時間がかかる場合もあり、自分を守る「自助」と、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」が重要になります。自治会は「共助の要」として災害時に円滑な助け合いができるように、日頃から地域での助け合いについて備えることができます。今回は各自治会が行っている防災活動を紹介します。

その他の自治会の活動等、詳細は市☎(右記参照)をご覧ください。

☎総務契約課総務係



東長沼自治会

東長沼自治会では、防災に特化した組織として「東長沼自治会自主防災組織」を平成9年に設立し、「自分たちの地域は自分たちで守る」を目標に活動しています。

初期消火訓練や避難訓練、普通救急救命訓練の他、炊き出しや災害時トイレの組み立て、「火の用心」活動等、いざという時に備えた訓練を工夫しながら、毎年行っています。また、活動を通じて、より災害に強いコミュニティの構築を目指しています。



▲風水害の備え

押立自治会

多摩川に隣接する押立地域では、多摩川の越水に備えた避難・水防訓練が重要になります。今年度は、自力避難困難者の避難訓練や救命ボートの使用訓練を行った他、子どもたちも参加しやすい訓練とし、約150人が参加しました。その他、自治会員向けに、押立地域の避難所や備蓄品リスト等を掲載した「風水害の備え」を各戸に配布しています。

城山自治会

城山自治会では、自主防災組織があるものの、運営が十分にできていないことが課題となっていました。そこで住民の「自分たちのまちは自分で守る」という自主防災の意識を高めるため、「防災セミナー」を開催しました。併せて参加者に災害への備えについてのアンケートも行い、住民の防災に対する機運を高めるきっかけとなりました。



▲防災セミナーチラシ



ファインストリア団地自治会

ファインストリア団地自治会はマンション9棟からなる自治会です。マンションでは特に「在宅避難」に備え、食料備蓄に加え大規模災害時のトイレ問題が共通課題となっています。例年開催している秋まつりの中で、「災害時トイレのワークショップ」を開催したところ、多くの住民に参加いただきました。今後も防災意識の向上につながる普及啓発活動を続けていきます。

日頃から備える防災



稲城市自治会連合会長
榎本 勝美氏

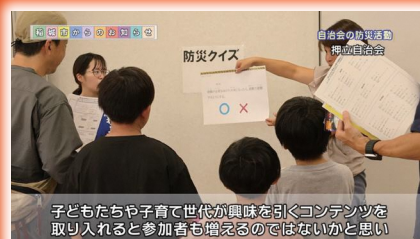
毎年各自治会では、地域特性に応じた様々な防災訓練を実施しています。災害はいつ起こるか分らず、日常的な備えが重要になっています。平常時から避難経路や危険箇所を知っておけば、スムーズに避難ができますし、近隣の方との日常的なコミュニケーションが、災害時の円滑な助け合いにつながります。

まずは地域で行われている防災活動に足を運んでみて、自治会の活動を知ってもらえればと思います。まだ自治会に加入されていない方は、ぜひ加入をご検討ください。

動画でも紹介しています

地域防災力の向上に取り組む市内の自治会を取り上げた動画を稲城市公式動画チャンネルで公開しています。ぜひご覧ください。

☎秘書広報課広報広聴係



子どもたちや子育て世代が興味を引くコンテンツを取り入れると参加者も増えるのではないかと思います



いざという時に備えて、災害時トイレの使用を学ぶワークショップを開催しました